

## 第6回中四国 MIST 研究会 開催報告書

2017年3月11日土曜日に、高松シンボルタワー；タワー棟6Fのかがわ国際会議場にて第6回中四国 MIST 研究会を開催いたしました。総勢89名（医師47名、コメディカル42名）のご参加をいただき、無事に終了いたしましたのでご報告させていただきます。

今回のテーマは、「MISTの現状（俺のMIST）と未来への飛躍」として、MISTの現状の手技を指定講演で披露していただき、今後の展望と未来への飛躍として特別講演を行っていただきました。

指定講演は、1「CBTの原法からCBT現法へ～解剖・バイオメカニクスを踏まえたCBT手技～」松川啓太郎先生。2「腰椎分離修復術～各種術式紹介とSmily face rod法のちょっとしたコツ～」酒井紀典先生。3「成人脊柱変形に関するMIST」田中雅人先生。以上3人の先生に行っていただきました。各先生方に「俺のMIST」として独自の手術手技や工夫を講演していただき、多くの看護師さんにも分かり易い内容で、好評でした。

会長講演は、「骨粗鬆症性圧迫骨折陳旧例の手術治療方針」としてBKPとModified PSO & PLIFによる後方矯正固定の手術手技とテリパラチドの有用性についてお話させていただきました。

ハンズオンは、OLIF+ナビ（田中雅人先生・時岡孝光先生）、XLIF（尾形直則先生、中西一夫先生）、PPS（生熊久敬先生・喜安克仁先生）、CBT（松川啓太郎先生・小坂浩史先生）、分離修復（酒井紀典先生・寺井智也先生）の5つの会場に分かれて各講師の先生に指導していただきました。60名のハンズオン希望の医師、看護師の方たちが、それぞれ前半、後半に2会場を選択し実際に模擬骨にインプラントを挿入してもらいました。各テーブル6人でしたが、時間が30分ずつしか取れなかったため、もうすこしゆっくり手に取って見たかったという声も上がりましたが、参加して良かったとおおむね好評でした。ハンズオンの時間を多くとれなかったことをお詫び申し上げます。

MIST研究会の締めくくりに、まず特別講演1を江南厚生病院副院長である金村徳相先生から「側方アプローチ手術の安全性を見直す：医療安全から見た可能性と限界、今後の展望」を、特別講演2を名古屋第二赤十字病院副院長であ

る佐藤公治先生から「最高の MIS t 手術のためのチームビルディング」を御講演していただきました。金村先生からは LLIF のアプローチのための後腹膜腔の解剖についてくわしく解説していただきました。佐藤先生からは MIS t 手術を行う上で、医師、看護師、ME、放射線技師すべてのスタッフとの関わり合い方や、チーム構築の有用性など講演していただきました。

今回研究会を盛会に終えることができましたのも多数の先生方をはじめ、協賛の各メーカーの皆様のお力添えのおかげと存じます。ご参加していただきました皆様には心より感謝申し上げます。

次回の第7回中四国 MIS t 研究会は、田中信弘先生（広島大学）が当番幹事となります。今年の秋に広島で開催予定ですので、皆様方とまたお会いすることを楽しみにしております。

第6回中四国 MIS t 研究会 会長 千川 隆志

